

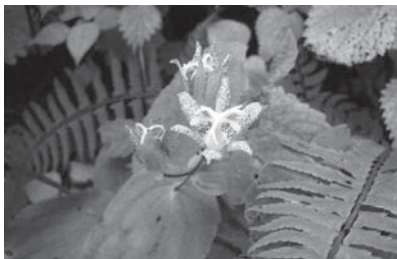
## 追悼：鮫島惇一郎先生

鮫島先生の植物画は、鮫島・鮫島（1987）の『原色図譜エンレイソウ属植物』でよく知られている。この増補改訂版となる『新・原色図譜エンレイソウ属植物』（鮫島ほか 2023）も昨年春に出版された。ここでは私が鮫島先生からお世話になった植物画の分野の記録を残しておきたい。1991年から99年にかけて”Miyabea”というタイトルの英文小雑誌を北大植物園から4号まで発刊したことがある（Tsujii et al. 1991, 1994, 1997, 1999）。Illustrated Flora of Hokkaido という副題を付け、シリーズで北海道のフロラを植物画で紹介しようと企画したものであった。植物画の専門家として編集委員に入ってもらったのが鮫島先生だった。サクラソウ属を紹介した No. 2 (1994) では特別にエゾコザクラの植物画を描いて頂いた。2008年3月には北大総合博物館での第55回企画展示として「ボタニカル・アート展—植物学と芸術の出会い—」を開催し、鮫島先生の植物画を展示させて頂いた。展示終了後にはエンレイソウ属植物の植物画（北米産14点、日本産10点）や『原色図譜』に関わる原画、原図、論文原稿、資料類を

総合博物館に寄贈して頂いた。エンレイソウの植物画は今でも北大総合博物館3階南側の展示通路沿いに数点掲げられている。時に北米産エンレイソウ属の植物画を食い入るように見ている来館者を見かけることがあり、鮫島先生に少しは報いることができたかと思っている。

鮫島和子・鮫島惇一郎. 1987. 原色図譜エンレイソウ属植物. 北海道大学図書刊行会, 札幌.  
 鮫島和子・鮫島惇一郎・河野昭一・F. H. Utech・大原雅. 2023. 新・原色図譜エンレイソウ属植物. 北海道大学出版会, 札幌.  
 Tsujii, T., Takahashi, H., Samejima, J., Watanabe, S., Toyokuni, H. and Kawano, S. 1991. Miyabea sive Illustrated Flora of Hokkaido No. 1. Botanic Garden, Faculty of Agriculture, Hokkaido University, Sapporo.  
 Tsujii, T., Takahashi, H., Samejima, J., Watanabe, S., Toyokuni, H. and Kawano, S. 1994. Miyabea sive Illustrated Flora of Hokkaido No. 2 (Primula). Botanic Garden, Faculty of Agriculture, Hokkaido University, Sapporo.  
 Tsujii, T., Takahashi, H., Samejima, J., Fujita, H., Tsukui, T., Ohara, M., Watanabe, S. and Kawano, S. 1997. Miyabea sive Illustrated Flora of Hokkaido No. 3 (Spring ephemerals). Botanic Garden, Faculty of Agriculture, Hokkaido University, Sapporo.  
 Tsujii, T., Takahashi, H., Samejima, J., Fujita, H., Tsukui, T., Ohara, M., Watanabe, S. and Kawano, S. 1999. Miyabea sive Illustrated Flora of Hokkaido No. 4 (Sphagnum). Botanic Garden, Faculty of Agriculture, Hokkaido University, Sapporo.

（高橋 英樹）



ハゴロモホトトギス  
 2005年、林業関係誌の表紙を担当しておられた鮫島先生が、この花の現状を心配される記事を掲載されました。それに応じて翌年同誌に現地レポートを書いた時の1カットです。  
 北方林業 57(11)、58(12)（新田）



雨竜沼湿原の木道沿いの、あの変わった花は…、鮫島先生からの宿題  
 ヒオウギアヤメのように基部にアヤメ模様があり、カキツバタのように内花被片がピンと立ち、両種の特徴を持つ大きな青紫色の花。  
 仮称ヒオウギカキツバタ、北方山草 31号で回答を読まれた先生から電話が来ました。「佐々木さん、ありがとうございます。及第点です」。先生の声も弾んでいました。  
 今も健在で、あの木道沿いで咲いています。（佐々木）

鮫島惇一郎先生（97歳）が、2024年1月7日、肺炎のためご逝去されました。1月22日がお誕生日で、もう少しで98歳を迎えられる前でした。ご葬儀は、1月10日に偲ぶ会、翌日にお別れの会が執り行われました。喪主は新井田典子さんと馬場繁幸さんが務められました。新井田さんのお話では、ご自身の葬儀の段取りはすべて鮫島先生が生前に書き残されており、すべてそのとおりに行ったとのことでした。偲ぶ会では佐藤謙さん、お別れの会では馬場さんが、鮫島先生との深く、温かい思い出をご紹介くださいました。

私にとっての鮫島先生は、先にお亡くなりになった奥様の和子先生とともに「エンレイソウ属植物 (*Trillium*) 研究」の大師匠です。私が、北大農学部を卒業後、当時の大学院環境科学研究科の修士課程入学時に伊藤浩司先生から、富山大学の河野昭一先生の研究室に内地留学させていただき、「エンレイソウ属植物の生活史研究」のテーマを頂きました。私ことで大変恐縮ですが、母が舘脇操先生の研究室で秘書をしていたことから、当時舘脇研究室の学生であった方々が先生となり、私をご指導していただいたことに深く感謝申し上げます。大学院でエンレイソウ研究のテーマを頂いたことを母に話したところ、母から1961年に北大農学部附属植物園から発行された「エンレイソウ園」という冊子を渡されました。その冊子には、母が切り取った新聞記事が挟まっていました。見出しは、「陛下にお見せする：エンレイソウ論文集 - 研究に鮫島夫妻の努力」。記事には鮫島先生ご夫妻の写真も掲載されていました。これは、昭和天皇

が1961年に植樹祭で来道された際、5月26日（まさにオオバナノエンレイソウの開花の最盛期）に北大植物園「エンレイソウ園」をご覧になるというものです。その新聞記事は今でも大切に手元にあり、お別れの会では馬場さんが、そのコピーを額に入れ、斎場の入口に飾ってくださいました。

実は、私は鮫島先生とはフィールドを一緒に歩いたことはありません。しかし、とにかく鮫島先生の記憶力の良さと丁寧さには、何度も驚かされました。一番印象的なことは、私が博士課程に進学し、1982年に北米のエンレイソウ属植物の生活史を研究する留学の機会をいただいた際、渡米する前に江別のお宅にご挨拶に伺った時のことです。「大原君、ジョージア州の Tallulah Falls というところに変なエンレイソウがあるんだよね」と、州の地図を取り出し、すらすらと付近の地図も描いて下さいました。今のようにネット検索できる時代ではなく、Tallulah Falls? がどこなのか全くわからずに渡米したのですが、少しずつアメリカでの調査にも慣れてきた時に、その Tallulah Falls がどうしても気になり、当初の調査ルートを外れて Tallulah Falls に立ち寄りしました。到着してみると、Falls の名の通り険しい渓谷の景勝地で、こんなところにエンレイソウはいないよな ...、と思いながらその渓谷の狭い森の中に入ってみると、まさに変なエンレイソウ *Trillium persistens* が生育していたのです。

また、写真集「回想の風景・札幌」を出版された時には本を送ってくださり、お手紙に「頁〇〇にあなたのお母さんが写っています」と書かれていました。写真にはサ

ツポロビール園の大きい建物の前にいる集団が写っているのですが、息子でもよく探さないとわからないくらい小さく母が写っているのです。古い写真をきちんと整理され、集団の中の母をきちんと認識してくださっているのも、鮫島先生の几帳面な性格に違いありません。

私よりも、鮫島先生とのお付き合いが長く、深い方々もたくさんいらっしゃる中で、拙文を書かせていただきました。時々、お電話をくださり「もしもーし。さめさんでーす」がもう聞けないのは、寂しい気持ちでいっぱいです。

エンレイソウ属植物は、種子から開花まで長い年月がかかる植物です。でも、一度開花するとその後は毎年開花を繰り返します。鮫島惇一郎先生、和子先生のエンレイソウ属植物の研究はしっかり開花し、毎年花を咲かせ、実を結びました。先生たちが結実させた研究の種子はしっかり発芽し、次の研究者たちに引き継がれています。

鮫島惇一郎先生、本当にありがとうございました。

(大原 雅)



*Trillium apetalon* Makino f. *album* J. Samej.  
トイシノエンレイソウ (撮影：新田)



*T. x miyabeanum* Tatew. ex J. et K. Samej.  
ヒダカエンレイソウ (撮影：新田)

### 鮫島先生が学名の著者となった植物

編集委員会

鮫島先生は次のエンレイソウ類 9 分類群で 12 の学名を発表しています。

- Trillium apetalon* Makino f. *album* J. Samej. トイシノエンレイソウ
- T. apetalon* Makino f. *atropurpureocarpum* Makino クロミノエンレイソウ
- (*T. apetalon* Makino var. *viridipurpureocarpum* (Makino) J. Samej. synonym)
- (*T. apetalon* Makino var. *atropurpureocarpum* (Makino) J. Samej. synonym)
- T. apetalon* Makino f. *rubrocarpum* (J. Samej.) Yonek. アカミノエンレイソウ
- (*T. apetalon* Makino var. *rubrocarpum* J. Samej. synonym)
- T. apetalon* Makino f. *tripetalum* J. Samej. アカバナノエンレイソウ
- T. camschatcense* Ker Gawl. f. *plenum* (J. Samej.) H. Nakai et Koji Ito ヤエザキオオバナノエンレイソウ
- (*T. kamschatcicum* Pall. ex Miyabe f. *plenum* J. Samej. basion.)
- T. camschatcense* Ker Gawl. var. *soyanum* (J. Samej.) H. Nakai et Koji Ito ソウヤエンレイソウ
- (*T. kamschatcicum* Pall. ex Miyabe var. *soyanum* J. Samej. basion.)
- T. smallii* Maxim. var. *atropurpureocarpum* J. Samej. クロミノコジマエンレイソウ
- T. x miyabeanum* Tatew. ex J. et K. Samej. ヒダカエンレイソウ
- (*T. x miyabeanum* Tatew. ex J. et K. Samej. var. *atropurpureocarpum* J. Samej. synonym)
- T. x yezoense* Tatew. ex J. et K. Samej. トカチエンレイソウ
- (*T. x yezoense* Tatew. ex J. et K. Samej. var. *atropurpureocarpum* J. Samej. synonym)

「米倉浩司・梶田忠 (2003) 「BG Plants 和名-学名インデックス」 (YList), <http://ylist.info> 2024 年 1 月 20 日参照 (新田)